

個別面談結果 概要

②行方不明児童の保護者

主なご意見は、以下のとおり。

- 震災直後、学校及び市教委の関係者は、捜索現場にほとんど近寄らず、安置所で遺体を見ることもなかった。市教委への報告も、遺体捜索を行う保護者に聞いて、その内容を伝えるのみだった。
- 当初の捜索活動は、自衛隊はじめ関係機関も満足に入らない中、保護者と地域の人が行った。父兄は自らの手で遺体を探して掘り起こし、地域の方は水も満足にない中で、発見された遺体をきれいにしてくれ、遺体確認に協力してくれた。
- 本来は最優先で行うべき捜索活動が、まったく組織的に行われなかった。学校として、もしくは市教委としての災害対策本部を設置し、関係機関に要請して、早期に大々的な捜索活動を行っていれば、未だに行方不明のままということはなかったのではないか。
- 学校・市教委には、捜索活動を主体的に行おうという姿勢が見られず、親身に寄り添った対応をしてもらえなかった。
- 保護者が重ねて要請し、方法論等を提示し、各方面に頭を下げることにより、ようやくさまざな動きが徐々に実現してきた。どんな対応をされても、捜索をしてもらいたい一心で、我慢して頭を下げてお願いしてきた。
- 本来は、検証委員会での検証など必要ない。当事者が自らの非を認めて謝罪し、真剣に今後の改善に取り組むべきだった。真摯に反省して変わろうとしなければ、本当に、今後活かすことにはならない。
- 津波来襲前、子どもが数人、スクールバスに乗っていたという話も聞いた。なぜバスを使わず降ろしたのか。避難所だということで、安心感や甘さがあったのではないか。

③その他の児童ご遺族

陳述者のご希望により、いただいたご意見は非公開とする。

④教職員ご遺族

陳述者のご希望により、いただいたご意見は非公開とする。